



助け合いシステムの拡充による 生産力の向上と担い手の定着 ～地域力 UP で家族の笑顔、仲間の笑顔が いっぱいあふれるふる里を作ろう～ 十勝農業改良普及センター十勝南部支所 地域係



1 課題の背景

活動目標

市場に乳製品が飽和
かつ飼料価格が高騰

出荷数量制限下
における生産効率改善

1 経営環境の変化に
対応

当地域で最も可能性が
ある飼料コスト低減策

自給とうもろこしの
使用割合増加

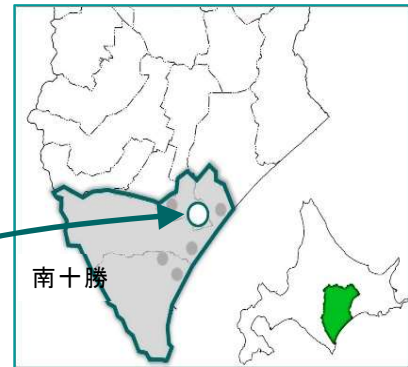
2 とうもろこしの
生産量向上

地域の担い手育成が
急務

自ら考えて行動できる
人材の育成が必要

3 若手生産者の
経営者能力向上

- TMR センターは乳牛の飼料を一元的に栽培・管理・調製・配送する農業者が設立した会社。南十勝には6社存在
- 「高品質な飼料を安定的、且つできるだけ安価に提供すること」を目的に活動する TMR センターの取り組みが南十勝の有力な解決モデル
- 構成員が意欲的な『青雲 TMR センター』（幕別町忠類地区）で、課題解決のためのモデルづくりを行う



2 活動の経過

1 経営環境の変化に対応

| 飼料効率の追求 | ロスを減らす飼料調製 | 採食量増加のための牛舎リフォーム |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 最小コストをねらった飼料設計支援（随時） ● 副産物飼料の有効活用提案 ● 農場と乳牛の情報を設計にフィードバック <p>農業者の所得確保に向けた最適解を毎週検討</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 飼料原料の乾物率に基づいた正確な飼料調製提案 ● 均一な採食のための TMR（混合飼料）への加水提案 ● 飼料の廃棄ロス最小化に向けた在庫調整提案 <p>飼料の有効活用を促進</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 自然な採食行動を促すための牛床構造改造提案 ● 調査により採食量を安定させるための換気改善提案 ● 改造実践農場への構成員巡回を提案 <p>濃厚飼料の必要量を低減するため採食量増加をねらう</p> |

「エサの水分を調整するだけでも乳量が安定するよ」



2 とうもろこしの生産量向上



品種選定

- TMRセンターでの品種比較試験を支援
- 品種毎の消化率を畜産試験場に調査依頼

自ら品種を選定する
きっかけを2年間支援

有機物の活用

- 土壌分析の活用
- たい肥とスラリー(糞と尿の混合物)の使い分けを提案
- 暗渠施工による排水改善

低収ほ場の改善策を明確化



若手が作業工程の意味を確認

- 融雪促進作業と早期は種
- は種時の鎮圧作業
- 害虫・雑草対策

労働生産性の確認



3 若手生産者の経営者能力向上

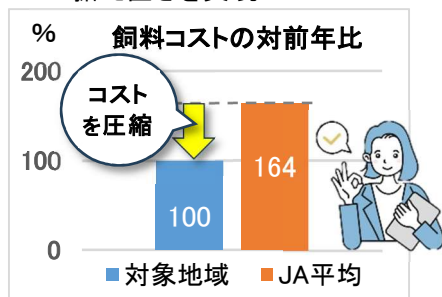
- 就農5年目以内の若手生産者を重点指導
- 経営の改善点や地域の将来を自ら考え、情報交換するイベントを企画し、若手生産者へ参加を促す
- 集合研修による飼養管理技術の底上げと、ほ場作業への積極的な出役を誘導

3 活動の成果

1 エサも、作業も、リフォームも。トータルで取り組んで飼料コストを圧縮

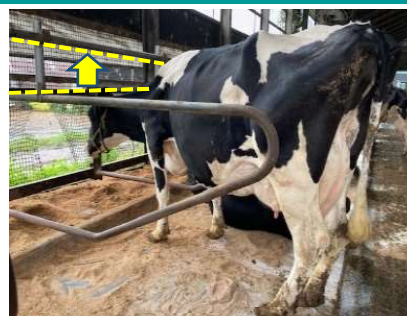
TMR単価を上げずにコスト削減

- 飼料用とうもろこしの給与割合と飼料効率を高めることで、TMR単価の据え置きを実現



採食量増加で濃厚飼料を低減

- 7戸(全戸)が改善に着手
- 乾物摂取量が6%向上(年間乳量420kg/頭増加に相当)
- 散水する暑熱対策が構成員の巡回で評価され普及が早まる



牛床構造の改造で採食回数が増加

「実際に見ると
散水が必要ね」

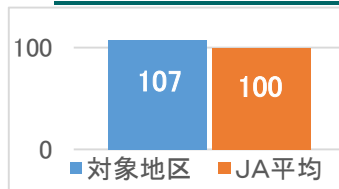


2 とうもろこしの収量アップで生産コスト低減

栽培技術をアップデート

- 試験結果を基にした品種選定が定着
- 作業の意味を理解して労働生産性を改善

10a当たり収量の向上



3 担い手が意欲的に行動

地域で積極的に活躍

- 出役作業や構成員巡回に積極的に参加
- 地域で必要とされる存在に変化

4 今後の活動

①技術力の高い経営発展モデルづくり

②地域への波及に向けて